

# 飛行船を活用したビジネスモデルの研究

大阪支店技術第1部 清田直紀 他

## ○キーワード

ハイテク飛行船、ビジネスモデル、災害復興支援、環境調査、地域活性化

## ○概要

近年開発されたハイテク飛行船は、ヘリコプターに比べて騒音が小さく、長時間の低空・定点の滞空が可能であるため、現在は遊覧・広告飛行に使用されている。現在は、機数が少ないため市場は小さいが、21世紀は環境や安全を重視した社会となるため、環境に優しい飛行船は、災害復興支援への活用のほか、環境調査や地域活性化（まちづくり）への活用が期待されている。本研究では、これらの飛行船活用に前向きな地方自治体や企業等と「全国エアシップタウン研究会」をたちあげて、今後の「飛行船の活用策」について官・民・学が一体となって取組めるビジネスモデルの研究を行なったものである。

## ○技術ポイント

飛行船とヘリコプターの比較を行ったほか、飛行船を活用した地域活性化や輸送手段としての内容について検討を行った。

- ① ハイテク飛行船の特性の整理
- ② 飛行船を活用した防災行政への活用
- ③ 飛行船を活用した環境調査
- ④ 飛行船を活用した地域活性化・観光振興
- ⑤ 飛行船を活用した新分野ビジネスの開拓

## ○図・表・写真等



調査に使用したツェッペリン NT 型 飛行船

ヘリコプターと飛行船の比較

	大型ヘリコプター	飛行船(ツェッペリンNT)
運航気象条件	有視界飛行条件 離陸時許容風速 17m/S	有視界飛行条件 離陸時許容風速 12m/S
離着陸地寸法	17m×21mの平坦地	200m×200mの平坦地
騒音参考値	80dA程度	75dA程度
航続時間	3.87h	24.0h(労務規定より8.0h)
航続距離	約780km	約900km
巡航速度	約240km/hr	約85km/hr(最大125km/h)
貸切り運賃	約91万円/hr	約800万円/day
使用用途	輸送・資材運搬・救助	遊覧・調査・搜索

飛行船の諸元

長さ	75.1m
幅	19.7m
高さ	17.5m
エンベロープ容積	8425m <sup>3</sup>
最大客席数	12席(操縦席含まず)
客室全長	10.7m
最大搭載重量	1900kg
エンジン出力	200HP×3基
速度(巡航・最大)	85km/h-125km/h
高度(巡航・最大)	300m-2250m
最大航続距離	900km
飛行時間(通常・最大)	8h-24h

